# P1-026

# 鳥取県米子市学校検尿30年間のまとめ

## 岡田晋一、神崎晋

鳥取大学 医学部 周産期・小児医学分野

# P1-027

# 「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」 の実施を诵じて

香月 雅子、小林 信秋、福島 慎吾、荻須 洋子、 本田 睦子

認定NPO法人 難病のこども支援全国ネットワーク

#### 【緒言】

学校検尿は1974年(昭和49年)から全国で開始され小児 慢性腎疾患の早期発見管理に貢献してきた. 今回, 鳥取県 米子市の学校検尿の30年の実態について検討した。

#### 【方法】

昭和53年度(1978年度)から平成27年度(2015年度)で データが得られた30年間に学校検尿を受検した米子市内の 小・中学生, のべ406,530人を対象とした. また, 同期間内 に学校検尿以外を契機として発見され腎生検を施行された 32例を比較検討した. 検討項目は、最終精密検査対象者数、 総合判定内訳であり、腎生検施行例については、最終診断 名,予後も検討した.一方,同期間内に学校検尿以外で発 見され腎生検を施行した症例では,その発症様式,腎生検所 見,予後等について比較検討した。

#### 【結果】

2,523/406,530人(0.62%)が3次精密検査対象者数であっ た. 最終総合判定内訳は、糸球体腎炎 (疑い含む) 44名、ネ フローゼ症候群6名, 尿路感染症11名, 起立性蛋白尿122 名,無症候性蛋白尿血尿73名,異常なし273名,その他73 名であった. 慢性腎炎として腎生検を施行されたのは47例 であり、腎生検所見はIgA腎症が28例と最も多く、微小変 化が7例,非IgA型増殖性腎炎が4例、紫斑病性腎炎,巣状 分節性糸球体硬化症が1例ずつ,その他6例と続いた。一方、 同時期に学校検尿以外で発見され腎生検を必要とした症例 は35例であった。急性発症例が多く、肉眼的血尿、浮腫、 蝶形紅斑、紫斑などを契機に発見されていた。腎生検所見 は紫斑病性腎炎が9例と最も多く、ループス腎炎、巣状分節 性糸球体硬化症がそれぞれ5例ずつ、IgA腎症が5例、微小変 化 3例、非IgA型増殖性腎炎1例、その他7例であった. 予 後については、学校検尿発見例では、IgA腎症をはじめとす る慢性腎炎症例はそのほとんどが加療により尿所見が消失 した. 若年性ネフロン癆の1例が末期腎不全となり、間質性 腎炎例1例が保存期慢性腎不全となった. 一方, 学校検尿以 外で発見された症例でも検尿所見は多くは改善し、末期腎 不全となった例はIgA腎症1例, 巣状分節性糸球体硬化症1 例であった.

### 【考察】

学校検尿で発見された慢性腎炎症例では末期腎不全に至っ た例はなく、学校検尿は慢性腎炎の腎不全移行の阻止に効 果があると考えられた。

#### 【目的】

平成27年1月より『小児慢性特定疾病児童等自立支援事業』 が始まり、各都道府県、指定都市、中核市において、慢性 的な疾病を抱える児童や家族の負担軽減や、児童の自立や 成長支援のため、地域資源の活用など必要に応じた支援を 行っている。必須事業である相談事業をはじめ、任意事業 として日常生活の支援や、患児同士の交流支援、就労支援 など、利用者の環境に応じた支援を行うことになっている。 東京都では約7,000名の小児慢性特定疾病児童がおり、認 定NPO法人難病のこども支援全国ネットワーク(以下難病 ネット)では、東京都より委託を受け実施している。

#### 【方法】

難病ネットで行っている自立支援の内容としては、相談事 業としてこれまでにも行われていた電話相談、遺伝相談、ピ アサポート等がある。また、交流支援としては毎年行われ ているサマーキャンプがあり、医師、看護師など大勢のボ ランティアが参加し、どんな障害や重症の子どもも受け入 れ、医療的ケアのある子ども達や家族も安心して参加でき る交流活動として全国9か所で行われている。山梨県北杜市 にレスパイト施設「あおぞら共和国」を建国し、病気や障 害のある子ども達と家族が、好きな時に気兼ねなく過ごせ る場所を提供している。また、これまでにも行っていた事業 として、病院内で遊びを提供するプレイリーダー活動があ るが、自立支援事業として「遊びのボランティア」を開始 し、長期入院中やレスパイト入院中の病棟、在宅療養中の 自宅へ訪問し、楽しい時間を過ごしている。

相談事業では、情報提供や同病の人同士の紹介や、漠然と した不安な気持ちを傾聴することにより、病気の子どもを 育てている親が孤立しないよう支援している。またサマー キャンプでは、医療的ケアがあるために外出や旅行などに 行かれない家族が安心して楽しむことができ、他の家族と の交流を深めている。遊びのボランティアでは、病棟や自 宅へ訪問することで、子どもの成長発達に大切な遊びを通 じて病気や治療に対する不安を軽くし、同時に親への支援 にもつながっている。

### 【考察】

自立支援といっても、自立のかたちは人それぞれであり、 必要としている支援は様々である。特に重い障害や重症の 子どもを育てている保護者にとって、どのような支援が必要 なのかは多様である。様々な問題を抱える中で、子ども達 や家族を孤立させることのないよう寄り添い、一緒に考え ていく事が重要である。